



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今回は、愛知工科大学学長内田高峰さんにお話を伺いました。

一子どもに読まれていた本は

「ロゼッタストーン」の本。中学1年生くらいのときだったかな、兄貴の書庫から引っ張りだしてきてね。石に、古代エジプトの文字とかギリシアの文字なんか3つの字体で書いてあるあれ。それを、シャンポリオンって人が読み解くわけですよ。その本を読んで、「学者になりたいなあ」と思った(笑)。こういうふうにして勉強するのか、なんて思いましてね。そのときすごく刺激を受けたんですね。



一おすすめの本はありますか

『新三河物語』と『蒼き信長』。私は蒲郡の人間じゃないもので。それでこの2つを読むとね、この辺りのことがよく分かるんですよ。『新三河物語』は、数年前に中日新聞の新聞小説でやってたんですよ。

『蒼き信長』は信長の若いころ、というよりお父さんの時代の小説。この2つをセットにして、是非ともこの辺りの人にも読んでもらいたいですね。おすすめやなあと思って。

あとは、うちの学生にさかんに言っているんだけど、本に親しむべし。まず言葉が読めないと、問題に行きあたらない。理科系だからこそ本を読めよ、とね。



『新三河物語(上・中・下巻)』
宮城谷 昌光／著
新潮社／出版



『蒼き信長』
安部 龍太郎／著
毎日新聞社／出版

お詫びと訂正

3月号「図書館だより」に誤りがありました。訂正してお詫びします。

(誤) 稲葉製鋼株式会社

(正) 稲葉製鋼株式会社

「切り替え管理」

■忙しい日々

今月は、リニユーアル用の原稿も書かねばならないので忙しい。他にもやらねばならないことだらけで、「パーマン」が使っていたもう一人の自分が勝手に動いてくれる「コピーロボット」が3台ほど欲しい。そのためアシカのメイン保護者役を後輩の三田に任せています。しかし全くアシカに接しないと、彼らは言うことを聞かなくなってしまうので、1日1回は必



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

ず接するようにして、三田が休みの日は1日中かわいがってあげています。

アシカのトレーニングが終わると魚の管理。大きな水族館ではアシカやイルカなどで1つのチームがあり、1日中世話をしたりしてありますが、竹島はショーのお兄さんは魚の管理もするし、チケットも売るし、水槽の設計もする。大変なんだから。

■気持ちの切り替え

いろいろな仕事をする中で心掛けているのは「気持ちの切り替

え」で、アシカはヨソゴトを考慮していたり気が抜けていると、逃げたしまったりかみついたりするので集中が必要。海の魚では水の汚れが早く、忙しいから明日ね、と思って水換えをサボると翌日には死んでいたりするので徹底した管理が必要。淡水魚はある程度水の汚れに強い。こちらは起爆剤的に一気に水換えをしたりすると刺激で産卵や繁殖をすることがあるので、タイミングを判断するために的確な観察が必要です。

魚の管理が済むと、会議や打ち合わせ。ここでは本職の学芸員モードになって、魚中心の考えだった飼育管理から、徹底してお客さん中心で考えます。そんな忙しいなら手分けすればいいの

にと思うが、他の人でも簡単にできる仕事だとすべてやられてしまい、明日から来なくていいよと言われてしまうので、私にしかできない専門の仕事や技術をたくさん持っています。

その場その場で気持ちを切り替えるので大変ですが、すべて小さなころからの夢で、なりたかった職業。やりがいがあるので私は幸せ者です。これで誰もがうらやむ絶世の美人の奥さんができて、努力が実って竹島水族館が驚くほど発展して大きくなったら人生大満足です。そのため、皆さんどうか水族館へ足を運び、できれば絶世の美女も用意してください。